

教材・支援機器活用実践事例

【特性に応じた部活動指導】

子どもについて	学校・学年・学級	中学校 3年 特別支援学級(自閉症・情緒障がい学級)	
	対象の障がい	支援が必要な生徒	
	授業形態	個別活動	
学習上又は生活上の困難さ	子どもの特性や教育的ニーズ	○衝動的に行動してしまうことがある。特に、集団の中に入ると不注意が多くなる傾向にある。耳から入る情報をしっかりと覚えており、事前に約束事を確認したり、言葉かけしたりすることで、適切な判断で行動することができる。	
教材・支援機器活用	使用した支援機器・教材の名称	「部活動中のルールやマナー」	
	活用のねらい	<p>○集団行動におけるルールやマナーについて学ぶ。</p> <p>○不注意を減らし成功経験を増やしていくことで、活動への自信につなげる。</p>	
授業における支援 ・教材の配慮事項		<p>○思うようにいかない状況になるとイライラしてしまうことがある。行動を振り返りながら、気持ちの切り替え方や対処法などを考える支援をしている。</p> <p>○注意を受けることで焦りと不満がつり、次の失敗につながってしまうことがある。不注意につながる原因や対処法を、一緒に考えながら、行動目標を設定している。</p> <p>○文字やイラストで大きく書き出し、必要に応じて掲示物や確認用として活用している。卓球ルールなどの基本的な約束事やきまりは、クイズ形式にして楽しみながら内容を把握させてきた。</p>	
子どもの変容や評価		<p>○学習経験により、マナーや約束事に気をつけながら、練習に参加することができるようになってきている。目標をひとつひとつクリアしながら、不注意の場面も減ってきた。失敗が減ったことで練習への意欲も増している。</p> <p>○授業で学習したことを声に出して確認したり、教師に同意を求めたりしながら、審判やゲームに参加している。新入生にアドバイスする姿も見られるようになった。</p>	